

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

| | |
|----------|--|
| P T A名 | 掛川特別支援学校 P T A |
| 学 校 名 | 掛川特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱 |
| 設 置 部 | <input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部 |
| 全校児童・生徒数 | 262 |

1. 使用状況

| | |
|---------------|---|
| 寄贈物品名 | ジャングルジム |
| 使用学年及び人数 | 小学部1～6年 122人 |
| 使用頻度 | 毎日 |
| 使用状況 | 主に昼休み(13:00～13:40)の外遊びの時間に活用している。常に子どもたちがジャングルジムに集まり、思い思いに方法で楽しんでいる。昼休みの時間になると我先にとジャングルジムに登る児童が多い。ジャングルジムのある広場は、小学部の児童が学年を超えて共に遊ぶことのできる広場であり、ジャングルジムはその広場の、シンボリックな存在となっている。 |
| 物品の使用による変化や効果 | 上手に上ることができなかった児童が、教師の支援を受けて徐々に手足を巧みに動かし、登ったり下りたりできるようになってきたケースもあり、運動機能の向上に役立っている。それ以上に高い所から景色を眺めたり、風に当たったりすることで友達や教師と心地よさを共有する良い時間となっている。 |
| 今後の活用の見通しや課題 | 今後も、引き続き、児童の大好きな広場のシンボリックな遊具として存在し続けられると思われる。課題は児童の数が年々増え、一度に安全に活動できる範囲を近い将来超えていくことである。 |
| その他希望や所感など | 大型遊具は、児童らが楽しんで体を動かし、基本的動作や健康的な身体を獲得できる上に、戸外での活動は情操教育にも大変価値の高いものである。今後も継続的に御支援を賜りたい。 |

2. 活用の様子

小学部の子どもたちはジャングルジムが大好きです。昼休みになると中庭に出てジャングルジムに走っていきます。



ジャングルジムのてっぺんから景色を眺めるのが好きな子もいます。

